

## 奈良橋通り

小松宏佳

すれちがうベビーカーの  
子に射ぬかれて  
わたしの目は  
先の歩道橋へ飛んだ  
青い四つんばいの鉄骨は  
魔人のように清楚だ  
立ち上がれば  
首のない怖さが哀しい

「きょうも、中川さんに褒め殺されたあ  
デイサービスから帰ってくると  
母は弾む声でぬり絵をみせてくれたっけ  
色えんぴつの

花に

人に

動物に

極彩の筆圧がおどる  
鮮やかな人生だったのか  
願いだったのか  
笑顔のむこうにあったものが吹いてくる

空に白い駱駝がくる  
母を乗せたひとこぶ駱駝は首を伸ばすと  
たちまち痩せて白骨体になり  
散りぢりになった骨はのこらず  
空が食べてしまった